

老朽原発 うごかすな! ニュース

第45号

発行・老朽原発うごかすな!
実行委員会

【連絡先】
090-1965-7102

福井県議会へ

23日の緊急行動報告

高浜1、2号、美浜3号機の老朽原発再稼働へ、杉本知事が4月6日、畑県議会議長と面談。知事は「国から最大50億円の交付金」など4項目の提案を受けたことで議会での再稼働議論を再度要請。

これを受けて畑議長も杉本知事と歩調を合わせ原発再稼働への前のめりの姿勢を露わにしてきた。高浜、美浜原発の現地視察や2度の全員協議会を経て最大与党の「県会自民党」も会派として再稼働に同意し、

議会の承認を得るために杉本知事が仕掛けた23日1日だけの臨時議会だった。

オール福井反原発連絡会は、朝1番に知事へ「原発に反対する団体と話し合うこと」を、次に議長へ「多数の陳情請願に対して担当委員会で請願者の意見を聴くなど丁寧な対応をすること」を申し入れ。正午ごろから、県庁前で「拙速

な審議をするな」と県内外の50名を超える参加者でアピール行動。「6月議会で避難計画や老朽原発の危険性をしっかり議論すべき」「県内外からの多くの請願を慎重に審議して」「原発から30キロ圏の琵琶湖が汚染されれば関西全域の住民が被害者になる」など次々とマイクで訴えた。

午後1時議会開始。傍聴席はほぼ埋まった。議場内の熱気と裏腹に、老朽原発再稼働に反対や慎重な議論を求める請願59件が全て不採択となった。賛成討論に立った佐藤正雄議員、細川かおり議員は「コロナ禍で避難計画の実効性が不十分」「老朽原発の安全性に懸念がある」と訴えた。請願を付託された田中厚生常任委員長は「美浜、高浜両町が同意しており立地自治体の判断を重く受け止めるべき」と不採択の審査結果を報告。多くの請願者の願いは握りつぶされた。その後再稼働を前提とした意見書と原発推進団体から出された請願1件が賛成多数で可決・採択された。

民意を信じ、民意の実現に奮闘しよう!

福井県知事は老朽原発再稼働に同意しましたが、誰が何と言おうと、理は私たちにあります。もつともつと大きな運動で、理不尽に対抗したいと思えます。また、脱原発、なかなかなく老朽原発廃炉は圧倒的な民意です。私たちは、民意を信じて、民意の実現に奮闘したいと思えます。

なお、今朝(30日)の福井新聞は、4月29日、関電が、高浜1号機の再稼働を当面見送る方向で最終調整していると報じています。特重施設の完成が間に合わず、再稼働しても、1週間程度で停止せざるを得ないためです。市民運動、裁判闘争をはじめとする反原発運動の成果ともい

えます。ただし、関電は、美浜3号機の再稼働を優先させ、5月10、11日に、核燃料をサイトに搬入しようとしているという情報もあり、五月中の再稼働も危惧されます。あらゆる可能な行動で「老朽原発うごかすな!」を訴えましょう! 「6・6大集会」を全力で成功させましょう。(老朽原発うごかすな!)
実行委員会 木原壮林

過敏に反応し「そうだ」「審議はつくされていい」との声に対して退場を命じるなど過剰な対応だった。議会終了後杉本知事は、「再稼働に向きな考えが示された」と理解している」と記者に述べている。間髪入れず本日24日には、美浜、高浜両原発を視察し、「安全性が格段に向上していると感じた」と記者会見した。今後は、森本関電社長、梶山経産大臣と面談した上で早ければ明日、明後日も判断するのではないかと危惧される。オール福井では、



「危険な老朽原発を動かすな！」とはがき、フアックス、署名、要請、陳情、請願されたみなさんの思いを最後まで杉本知事へ突きつけるべく、あらゆ

福井県議会は、民意を無視し

老朽原発の再稼働同意を強行

当日私たちは、12時県庁前でオール福井反原発連絡会の街宣に合流し、その後、議会傍聴に向かった。

入場の際に「第415回

臨時会 請願文書表」を渡された。両面印刷で56枚に及ぶ分厚い冊子だ。全国から寄せられた再稼働反対の請願書がとじられている。反対の請願は59件、賛成派は1件A41枚（おそまつ）である。

午後1時に開会されすぐに休憩（委員会開催）、2時35分から再開で審議に入る。

最初に佐藤議員から反対の立場で具体的に簡潔に表明がなされた。傍聴席から声援と拍手が送られるたびに議長が注意を行う。傍聴席の各所に職員を配置し威圧。議長は携

るアピール行動を続けていきます。

オール福井反原発連絡会

林 広員

帯の呼出音が鳴っただけで退場を命じる徹底ぶりだ。傍聴席からプラカードを掲げて抗議の声を挙げた人が退場させられたの言うまでもない。

議事はまるで儀式のように進められた。反対意見に対する反論は何もない。推進派の請願書には、「私たちは半世紀に及ぶ歴史の中で、大きな事故を経験し、不安を抱え、風評被害を抱えながら国策に協力していくという強い信念

と誇りをもって・・・立地地域の振興と安定した雇用を確保していくため・・・原子力との共生を目指す・・・と。「不安」や「風評被害」と言うなら脱原発の経済政策を真剣に考えるべき。熱意も能力も責任感もないから原発マフィ

アの下っ端となっている。その下っ端としての「強い信念と誇り」だ。1発電所25億円（私たちの税金だ！）で骨の髄まで買収されたのだろう。4月7日、福井県に「拙速な判断はするな。市町村レベルでの説明会を開催せよ」等の申し入れを行ったが、県当局からの具体的返答はないま

京都・滋賀の団体を廻って

断食中の哲演さん 気迫の訴え

4月23日、老朽原発再稼働への拙速な同意を戒める断食を21日から敢行中の中嶋哲演さんと共に、4人の実行委員が京都、滋賀の10団体を訪問し、「6・6老朽原発

うごかすな！大集会E3におおさか」への賛同、参加を訴えた。移動の車中、哲演さんから、福井県議会の状況や、オール福井のみなさんの、必死の取組などをお聞きし、「今頃、

議会でのような審議が。県庁前では、多くの方が抗議をしてくださっているだろう」と、気をもみながらの団体廻

また。万一の事故にどう避難するのか（できるのか？）さえあいまいだ。私たちは原発反対「怒りの見える化」を広げ大きく鋭くしよう。原発の危険性を粘り強く訴え、推進派議員を市町村議会から国会まで一人ずつ減らして行こう。（城陽市 Yさん）

りだった。こんな大事な日に、よく京都までと恐縮したが、「こんな日だからこそ、私に関西に来て、呼びかける意義があると思っ

しやる哲演さんは、断食3日目というのに10団体すべての対応者を前に、腹の底から発せられる気迫に満ちた声で、真っ向から訴えられた。断食中は、口にするのは水だけ、出されたお茶さえ飲まれなかった。

「コロナだから、組織的な参加員はむずかしい」という声はあったが、代表の参加だけでも、そして、このような取組みを広めていくだけでも意義はあると強く感じた。途中、「議会がたつた1件の、再稼働賛成の請願を採択し、59件の反対請願等を不採択にした」という連絡が入った。何という拙速さ！ 59件を一括審議などで判断するのか！

哲演さんは、帰りの列車ぎりぎりまで京都キンカン行動でアピールされた。「老朽原発うごかすな！」の闘いは終わらない。どの原発も、年々老朽原発へと向かっているのだから。6・6大集会を全力でやりきろう。（実行委員 橋田秀美）



断食中の中嶋哲演さんの訴え (京都キンカンで)